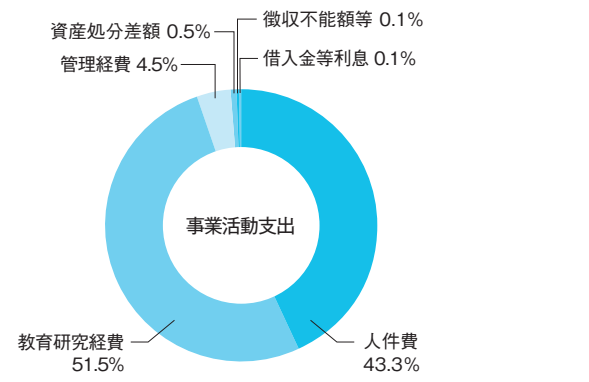
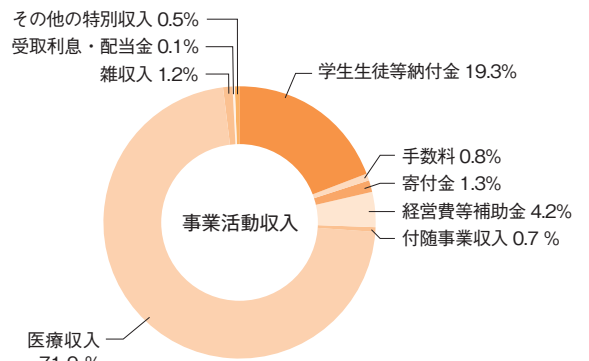


1. 平成28年度事業活動収支計算書 (平成28年4月1日から平成29年3月31日まで) (表1)

平成28年度決算 事業活動収支 科目別構成 (図表1)

(単位:千円 端数未調整)

科目	予算額	決算額	差異	構成比(%)
<b>事業活動収入の部</b>				
学生生徒等納付金	19,456,109	19,585,179	△ 129,070	19.3
手数料	772,408	784,059	△ 11,651	0.8
寄付金	1,046,500	1,356,527	△ 310,027	1.3
経常費等補助金	4,978,732	4,230,681	748,051	4.2
国庫補助金	3,728,242	2,845,718	882,525	—
地方公共団体補助金	1,242,125	1,368,291	△ 126,166	—
学術研究振興資金	0	500	△ 500	—
その他の補助金	8,365	16,173	△ 7,808	—
付随事業収入	601,595	665,255	△ 63,660	0.7
医療収入	73,826,310	72,902,767	923,543	71.9
雑収入	1,040,648	1,266,053	△ 225,405	1.2
教育活動収入計	101,722,302	100,790,521	931,781	—
<b>事業活動支出の部</b>				
人件費	44,069,206	43,896,234	172,972	43.3
教育研究経費	52,935,893	52,165,112	770,781	51.5
管理経費	4,181,420	4,594,869	△ 413,449	4.5
徴収不能額等	85,040	82,180	2,860	0.1
教育活動支出計	101,271,559	100,738,395	533,164	—
教育活動収支差額	450,743	52,126	398,617	—
<b>教育活動外収入の部</b>				
受取利息・配当金	109,008	93,230	15,778	0.1
その他の教育活動外収入	0	0	0	0.0
教育活動外収入計	109,008	93,230	15,778	—
<b>教育活動外支出の部</b>				
借入金等利息	60,453	55,467	4,986	0.1
その他の教育活動外支出	0	0	0	0.0
教育活動外支出計	60,453	55,467	4,986	—
教育活動外収支差額	48,555	37,763	10,792	—
経常収支差額	499,298	89,889	409,409	—
<b>特別収支</b>				
資産売却差額	0	514	△ 514	0.0
その他の特別収入	484,483	536,462	△ 51,979	0.5
特別収入計	484,483	536,977	△ 52,494	—
資産処分差額	608,082	506,114	101,968	0.5
その他の特別支出	600	5,136	△ 4,536	0.0
特別支出計	608,682	511,250	97,432	—
特別収支差額	△ 124,199	25,727	△ 149,926	—
[予備費]	99,000	—	99,000	—
基本金組入前当年度収支差額	276,099	115,615	160,484	—
基本金組入額合計	△ 8,954,382	△ 7,666,126	△ 1,288,256	—
当年度収支差額	△ 8,678,283	△ 7,550,510	△ 1,127,773	—
前年度繰越収支差額	△ 111,342,513	△ 108,437,326	△ 2,905,187	—
基本金取崩額	0	98,446	△ 98,446	—
翌年度繰越収支差額	△ 120,020,796	△ 115,889,391	△ 4,131,406	—
(参考)				
事業活動収入計	102,315,793	101,420,728	895,065	100
事業活動支出計	102,039,694	101,305,113	734,581	100



2. 平成28年度資金収支計算書 (平成28年4月1日から平成29年3月31日まで) (表2)

(単位:千円 端数未調整)

収入の部					支出の部				
科目	予算額	決算額	差異	構成比(%)	科目	予算額	決算額	差異	構成比(%)
学生生徒等納付金収入	19,456,109	19,585,179	△ 129,070	12.9	人件費支出	43,044,492	43,469,406	△ 424,914	28.7
手数料収入	772,408	784,059	△ 11,651	0.5	教育研究経費支出	44,870,859	44,027,177	843,682	29.1
寄付金収入	1,078,300	1,408,508	△ 330,208	0.9	医療経費支出	30,165,840	30,715,712	△ 549,872	—
補助金収入	5,374,325	4,475,885	898,440	3.0	管理経費支出	3,515,038	3,935,015	△ 419,977	2.6
国庫補助金収入	3,897,955	2,901,606	996,349	—	借入金等利息支出	60,453	55,467	4,986	0.0
地方公共団体補助金収入	1,468,005	1,557,606	△ 89,601	—	借入金等返済支出	1,776,810	1,776,810	0	1.2
学術研究振興資金収入	0	500	△ 500	—	施設関係支出	14,385,608	12,856,620	1,528,988	8.5
その他の補助金収入	8,365	16,173	△ 7,808	—	設備関係支出	6,399,424	4,581,404	1,818,020	3.0
資産売却収入	60,000	60,414	△ 414	0.0	資産運用支出	19,496,065	19,496,065	0	12.9
付随事業・収益事業収入	601,595	665,255	△ 63,660	0.4	その他の支出	13,455,004	14,162,337	△ 707,333	9.4
医療収入	73,826,310	72,902,767	923,543	48.2	予備費	99,000	—	99,000	0.0
受取利息・配当金収入	109,008	93,230	15,778	0.1	資金支出調整勘定(△)	△ 16,164,816	△ 12,127,704	△ 4,037,112	△ 8.0
雑収入	1,050,438	1,408,030	△ 357,592	0.9					
借入金等収入	6,500,000	6,500,000	0	4.3					
前受金収入	4,244,870	4,142,378	102,492	2.7					
その他の収入	35,447,666	37,457,716	△ 2,010,050	24.8					
資金収入調整勘定(△)	△ 18,006,404	△ 17,759,290	△ 247,114	△ 11.7					
当年度収入合計	130,514,625	131,724,131	△ 1,209,506	—	当年度支出合計	130,937,937	132,232,597	△ 1,294,660	—
前年度繰越支払資金	19,587,226	19,603,910	△ 16,684	13.0	前年度繰越支払資金	19,163,914	19,095,445	68,469	12.6
収入の部合計	150,101,851	151,328,042	△ 1,226,191	100	支出の部合計	150,101,851	151,328,042	△ 1,226,191	100

3. 活動区分資金収支計算書(抜粋) (平成28年4月1日から平成29年3月31日まで) (表3)

活動区分資金収支計算書について

(単位:千円、端数未調整)

科目	決算額	科目	決算額
教育活動資金収入計①	100,781,580	その他の活動資金収入計⑫	22,856,754
教育活動資金支出計②	91,426,463	その他の活動資金支出計⑬	17,296,137
差引③(①-②)	9,355,117	差引⑭(⑫-⑬)	5,560,617
調整勘定等④	410,345	調整勘定等⑮	△ 21,576
教育活動資金収支差額⑤(③+④)	9,765,462	その他の活動資金収支差額⑯(⑭+⑮)	5,539,041
施設整備費等活動資金収入計⑥	6,744,768	支払資金の増減額⑰(①+①⑥)	△ 508,466
施設整備費等活動資金支出計⑦	22,806,343		
差引⑧(⑥-⑦)	△ 16,061,575		
調整勘定等⑨	248,606		
施設整備等活動資金収支差額⑩(⑧+⑨)	△ 15,812,969		
小計⑪(⑤+⑩)	△ 6,047,507		

新会計基準になって初めての決算となった平成27年度より「活動区分資金収支計算書」を作成しています。「活動区分資金収支計算書」はこれまで作成していた「資金収支計算書」を3つの区分に分け(組替え)たものです。「資金収支計算書」は、収入と支出が一覧で表示されているので分かりやすいという長所がありました。一方で資金の調達と使用の原因分析が総合的にできない短所がありました。そこで、①教育活動、②施設整備等活動、③その他の活動に分類し、資金の流れを明確化することで、3つどの活動区分から資金を調達し、どの活動区分に資金を使用したのか、学校の「資金体質」を把握することができます。